

「私は保育士。パートナーはトラック運転手の仕事が忙しく、一緒にしようと思ったはずの家事や育児はほぼ私がしていて、負担が多くなっています」

この相談を聞いて、みなさんは共働き家庭の夫婦にどのような言葉をかけますか？おそらく妻には同情の言葉を、夫には協力を求める意見を考えたのではないかと思います。実は、負担が多く悩んでいた相談者の保育士は夫で、妻はトラック運転手だったのです。

「えっ」と驚かれた方、大きな車を運転するのは男性、人の面倒を見るのは女性と、知らず知らずのうちには仕事内容で性別を決めつけていませんか。

この相談には直接、性別を表す言葉は使われていませんが、保育士や家事・育児という文字から、

相談者を直感的に妻だと思った人が多かったのではないのでしょうか。「これは、職業や家事・育児に対する思い込みや決めつけと言われても仕方のないことです」。

とはいえ実際、保育士は女性、トラック運転手は男性が多いのも事実です。私たちはいつしか数の多さで、職業から性別を判断する思い込みを持ってしまっているのです。しかし、このような固定観念は、時として正常な判断をゆがめてしまうことがあります。それは誰かを不安にさせたり、傷つけたりすることにもつながります。思い込みは自分の経験から生まれてくるものもありますが、例えば、血液型で性格を決めつけてしまうなど、周りから与えられる情報から生まれるものもあります。

このような情報は疑ってかからないと、特定の人に対する思い込みをいつ

の間にか「持たされる」ということが起こってしまいます。自分がいつも当然だと思っていることが本当に正しいのか、思い込みや決めつけで行動していないか、見つめなおしてみませんか。

